

# 環境報告書 2011



株式会社駿河生産プラットフォーム



# Contents

- ごあいさつ
- 環境方針
- 環境管理体制
- 環境パフォーマンス
- 環境目的・目標
- 環境改善活動
- 環境監査
- 環境活動の歩み
- 会社概要

# ごあいさつ

弊社は「テクノロジーとエコロジーの共存」をスローガンに環境配慮型製品の開発、生産活動の効率化に推進してまいりました。2001年にISO14001を全事業所で認証取得し、2010年には、関連会社全てに環境マネジメントシステムを拡大しました。これにより汚染の予防、法令順守、廃棄物の削減、及び省エネルギーなどの環境課題に計画的に取り組んでいます。

環境問題は地域的な問題から、地球温暖化・循環型経済社会など地球規模への問題へ変化してきています。弊社は海外生産拠点を含む全事業所で事業活動から生じる環境負荷の低減に努め、持続可能な社会と環境のために貢献して行きます。

これからも環境保全活動の推進を通じて、事業の成長と社会貢献の両立を実現し、地域社会に望まれる企業として持続的発展を遂げていきたいと考えています。

このたび弊社の環境保全活動の取り組みを知っていただきたく本報告書を作成致しましたので、ぜひご一読いただき、忌憚の無いご意見をいただければ幸いです。



代表取締役社長 大野 龍隆



# 環境方針

当社は「テクノロジーとエコロジーの共存」をスローガンに関係者への環境教育を行い、環境関連の法規制及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。

以下の5つの項目について自主ガイドラインを設け、環境負荷削減に向けて、一層の環境保全に努めます。

尚、定期的に環境影響評価を実施し、環境目的・目標を定めて環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。

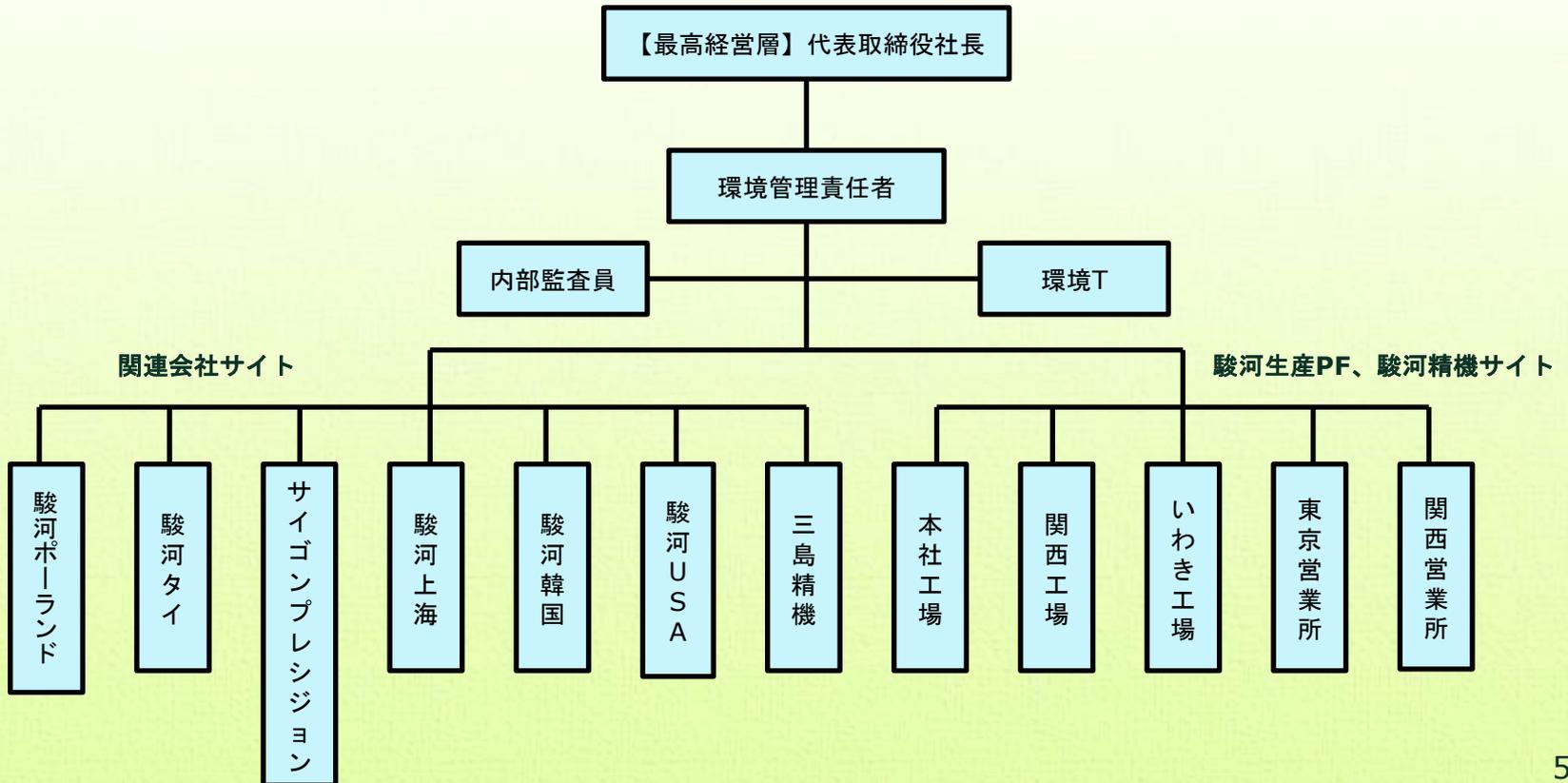
環境方針は一般に公開します。

1. 特定化学物質非含有管理と代替化推進
2. 環境汚染の予防
  - 1) 油類・有害物質の漏洩
  - 2) 騒音の敷地境界線からの漏れ
3. 廃棄物のリサイクル率の向上
4. 環境負荷の少ない商品開発
5. 省エネの推進

# 環境管理体制

## 当社における環境活動組織図

2010年度より、グローバル環境マネジメントシステムを導入し、関連会社を含む全社的な環境活動の組織体系を確立し、運用を開始しました。



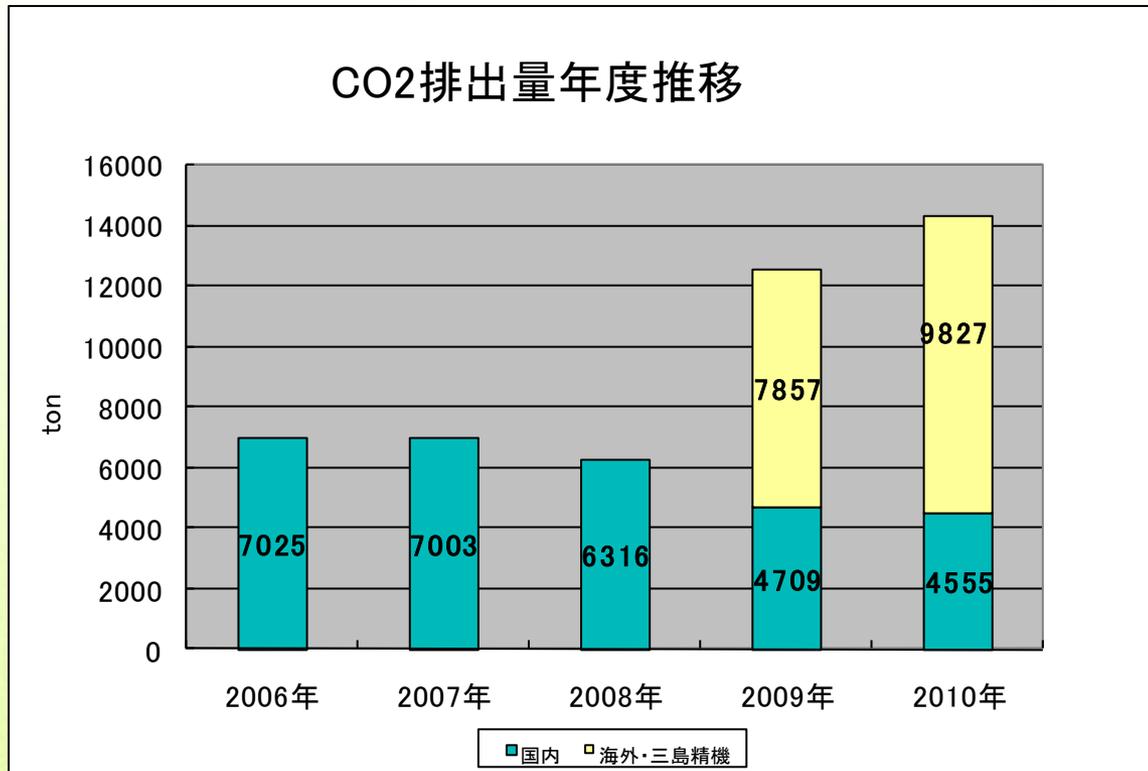
# 環境パフォーマンス

## 2010年度の結果

	駿河生産PF 駿河精機	関連会社 (海外・三島精機)	合計
電気	8,378MWh	22,639MWh	31,018MWh
ガソリン	16,913ℓ	7,137ℓ	24,050ℓ
灯油	14ℓ	12,179ℓ	12,193ℓ
都市ガス	94,348m <sup>3</sup>	0m <sup>3</sup>	94,348m <sup>3</sup>
LPG	464m <sup>3</sup>	30,756m <sup>3</sup>	31,220m <sup>3</sup>
LNG	0m <sup>3</sup>	221,027m <sup>3</sup>	221,027m <sup>3</sup>
水	8,900m <sup>3</sup>	94,592m <sup>3</sup>	103,492m <sup>3</sup>
廃棄物	230t	1,834t	2,064t

# 環境パフォーマンス

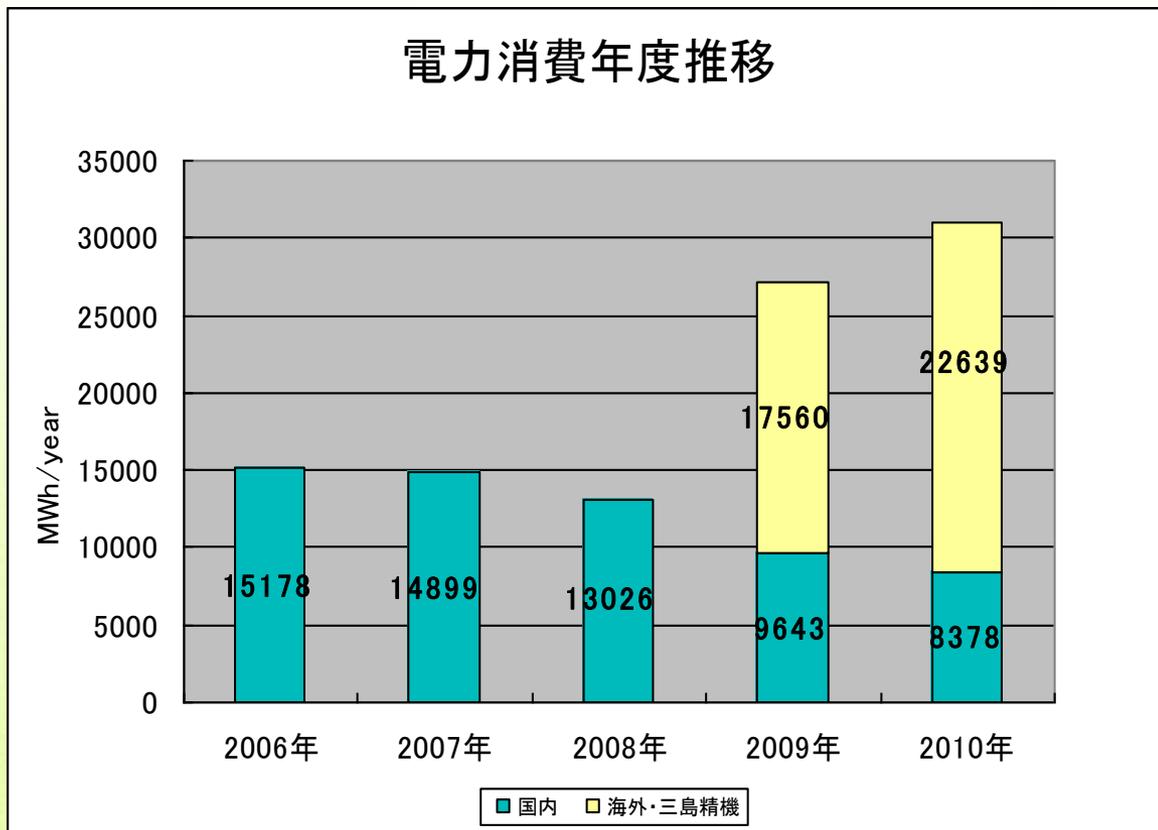
## CO2排出量



国内では減少傾向にあります。  
海外・三島精機では増加傾向  
にあり、全社でも増加していま  
すが、原単位(売上ベース)では  
2009年度比84%で減少してい  
ます。

# 環境パフォーマンス

## 電気消費量



当社は、エネルギー消費割合の98%を電気消費量が占めていることから、電気消費量は、CO2排出量とほぼ同じ傾向を示しています。

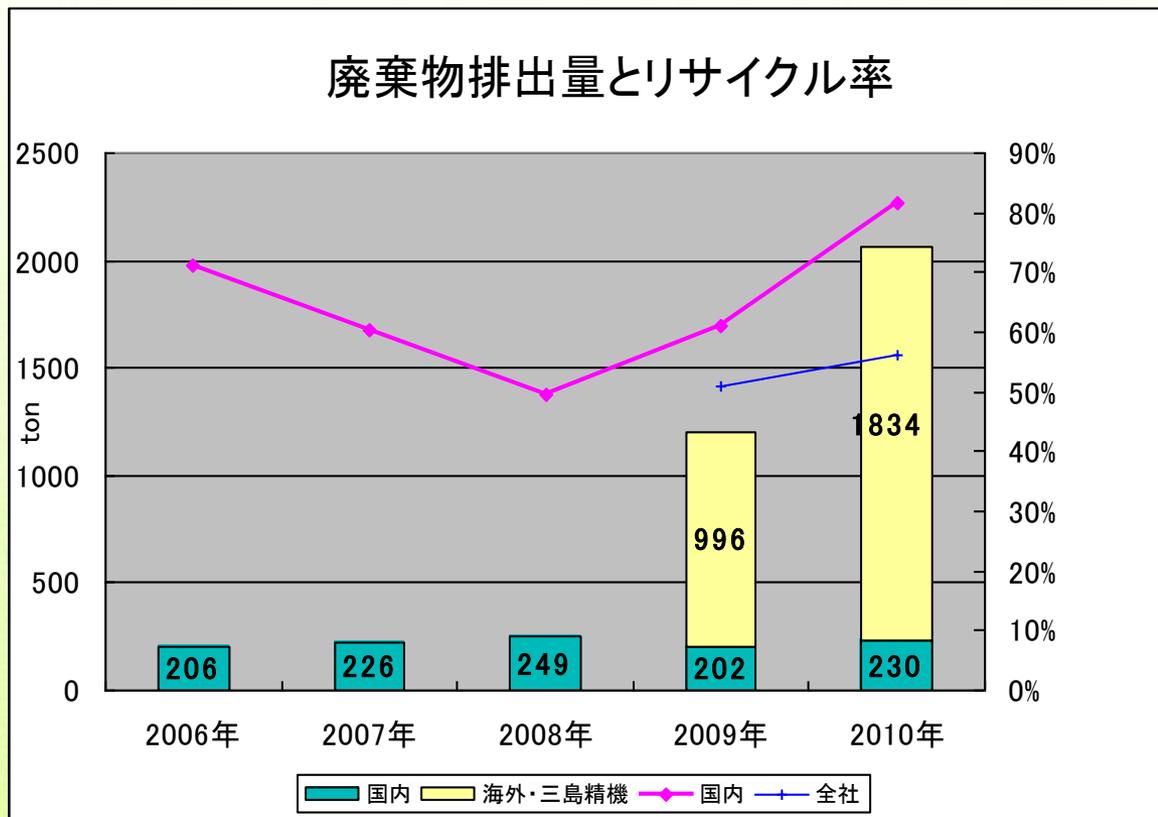
国内では減少傾向にあります。2010年10月に本社工場の合理化統合を実施し、エネルギー消費量の減少を実現しています。

海外・三島精機で増加し、全社でも増加していますが原単位(売上ベース)では2009年度比82%で減少しており、効率良い生産への改善傾向にあります。

# 環境パフォーマンス

## ● 廃棄物排出量とリサイクル率

棒グラフは廃棄物排出量を、折れ線グラフはリサイクル率を示しています。



廃棄物排出量の増加分は海外工場の占める割合が高く、今後海外工場での削減を検討していきます。

リサイクル率は、国内では前年度の61%から82%に改善され、取組みが結果に表れてきています。全社でも51%から56%で5%の改善がみられましたが、海外工場での改善を行ない、更なるリサイクル率向上への見直しを検討していきます。

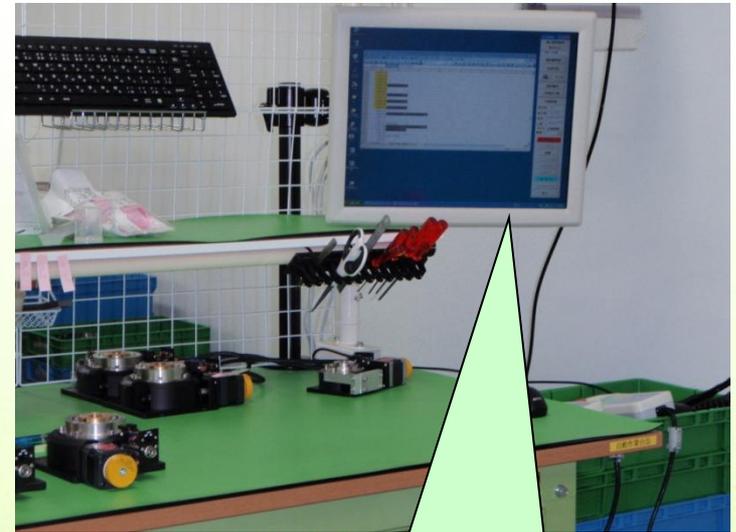
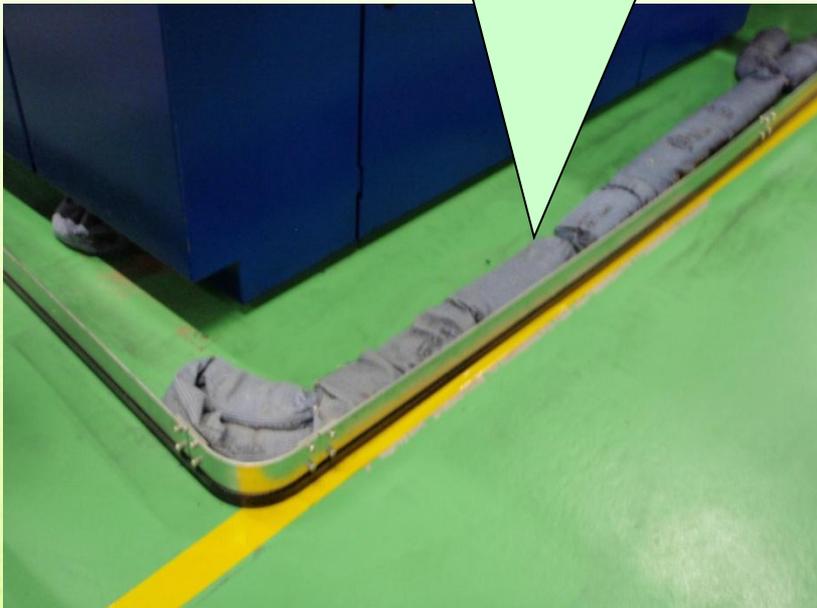
# 環境目的・目標

No	環境目的	環境目標 FY2011	環境目標 FY2012	環境目標 FY2013
1	特定化学物質非含有管理と代替化推進	有害物質削減計画に基づく削減	有害物質削減計画に基づく削減	有害物質削減計画に基づく削減
2	環境汚染の予防 1) 油類・有害物質の漏洩 2) 騒音の敷地境界線からの漏れ	漏洩事故 0件 騒音苦情 0件	漏洩事故 0件 騒音苦情 0件	漏洩事故 0件 騒音苦情 0件
3	廃棄物のリサイクル率の向上	2010年度比 4%増	2010年度比 8%増	2010年度比 12%増
4	環境負荷の少ない商品開発	DRによる環境負荷評価	DRによる環境負荷評価	DRによる環境負荷評価
5	省エネの推進	2010年度比原単位 当り10%減	2010年度比原単位 当り20%減	2010年度比原単位 当り30%減

# 環境改善活動

## 本社清水工場の環境改善活動

機械の油漏れ・油飛散対策として  
機械周りに防油枠と吸着ソックス  
を設置しました。(油使用機械全台  
数実施)



作業台へのPC設置により図面検  
索を可能にし、ペーパーレス化に  
よる資源保護、図面最新版の管理  
を行いました。(17台実施)

# 環境改善活動

## 本社清水工場の廃棄物分別状態



# 環境改善活動

## 各工場の危険物置場・廃油置場

関西工場



オイル飛散防止枠

駿河ポールド



オイル流出防止枠

いわき工場



オイルピット

駿河上海



オイル流出防止枠

# 環境改善活動

2010年10月に本社清水工場の合理化工事を完了

- ①本社地区の9工場を1ヶ所に統合しエネルギー使用の合理化を図る。
- ②12台使用していたコンプレッサーを高効率タイプ4台に統合。
- ③コンプレッサーの台数制御運転を導入し効率アップを図る。
- ④外壁、窓等を熱の損失を防止する省エネ構造にて建設。
- ⑤高効率照明器具、ランプを採用。(1982本)
- ⑥節電タイプのエアコンを採用。(74台)
- ⑦免震構造にて建設。



本社清水工場



コンプレッサー



本社清水工場

# 環境監査

環境マネジメントシステムの維持審査(本社、東京営業所、三島精機、駿河タイランド、駿河上海、駿河ポーランド)及び拡大審査(いわき工場)を受けました。(2011年8月2日~8月29日)

## 【 審査結果 】

- ・ 重大な不適合は検出されませんでした。
- ・ ISO14001の認証を維持できました。



# 環境活動の歩み

2011年株駿河生産プラットフォームへ社名変更

2010年工場効率化のため新社屋建設

2006年三島精機(株)を設立  
SURUGA KOREA CO., LTD.(韓国現地法人)設立

2005年(株)ミスミグループ本社と経営統合  
SURUGA (THAILAND) CO., LTD.(タイ現地法人)設立  
SURUGA POLSKA Sp. z o.o.(ポーランド現地法人)設立

1998年SURUGA USA CORP.(アメリカ現地法人)設立

1995年SAIGON PRECISION CO., LTD.(ベトナム  
現地法人)設立

1981年関西工場を開設

1964年5月8日駿河精機工業所を創立

会社沿革

過去

未来

2010年4月グローバル環境マネジメントシステム  
に移行し、関連会社を含む全社サイトで  
運用開始

2007年環境配慮型製品の販売開始  
(RoHS指令対応)

2006年9月グリーン調達ガイドラインを発行

2006年4月エネルギー消費量のモニタリングを  
開始

2001年1月駿河精機の全サイトで  
ISO14001の認証を受け、環境活動スタート

環境活動

# 会社概要

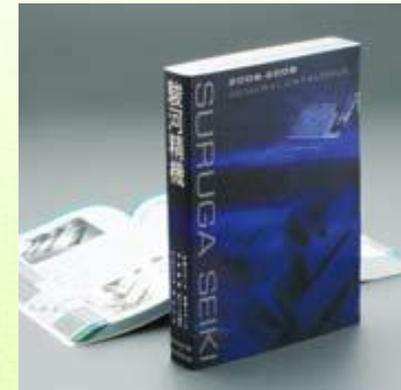
## 会社概要

2011年9月現在

事業内容 精密金型関連事業、光関連機器事業  
本社 〒424-8566  
静岡県静岡市清水区七ツ新屋505  
Tel 054-344-0311(代表) Fax 054-346-1053  
URL <http://www.suruga-g.co.jp/>  
創立 1964年5月8日  
代表者 代表取締役社長 大野龍隆  
資本金 491 百万円  
主要取引先 株式会社ミスミ  
電子・電気機器メーカー  
電線メーカー各社  
公的研究機関、大学研究室、他  
取引銀行 みずほ銀行 清水支店  
三菱東京UFJ 銀行 静岡支店  
三井住友銀行 静岡支店  
静岡銀行 清水支店

## 沿革 History

昭和39年 駿河精機工業所を創立  
昭和51年 株式会社に組織変更  
昭和56年 関西工場を三田工業団地内(兵庫県三田市)に開設  
平成4年 東京営業所開設  
平成5年 本社工場を新設  
平成7年 SAIGON PRECISION CO., LTD.(ベトナム現地法人)設立  
平成10年 SURUGA USA CORP.(アメリカ現地法人)設立  
平成13年 (上海)有限公司(中国現地法人)設立  
平成16年 東京証券取引所市場第二部 上場  
平成17年 SURUGA (TH AILAND) CO., LTD.(タイ現地法人)設立  
(株)ミスミグループ本社と株式交換により経営統合し、  
東京証券取引所市場第二部上場廃止  
SURUGA POLSKA Sp. z o.o.(ポーランド現地法人)設立  
平成18年 三島精機株式会社設立  
SURUGA KOREA CO., LTD.(韓国現地法人)設立  
平成19年 関西工場を「ミスミ生産パーク」へ移転  
平成22年 新本社工場を新設  
平成23年 株式会社駿河生産プラットフォームへ社名変更



対象範囲: 株駿河生産プラットフォーム、及び関連会社  
対象期間: 2010年4月1日～2011年3月31日  
前回発行: 2010年9月 次回発行予定: 2012年8月

発行日: 2011年10月1日  
問い合わせ先  
株式会社駿河生産プラットフォーム 生産インフラ部  
〒424-8566 静岡県静岡市清水区七ツ新屋505番地  
TEL: 054-344-0311 FAX: 054-346-1053  
E-MAIL: [eqm@suruga-g.co.jp](mailto:eqm@suruga-g.co.jp)